

環境配慮型素材開発ベンチャーの株式会社カミーノ

紙とポリ乳酸を複合した植物由来生分解性新素材 PAPLUS®を発表

牛乳パック等廃棄紙を循環利用し、石油由来樹脂成分ほぼ0%を実現。

リサイクル素材開発ベンチャーの株式会社カミーノ(本社:東京都港区、代表取締役:深澤幸一郎、以下カミーノ)は、紙と植物由来生分解性樹脂(ポリ乳酸)を複合した低環境負荷の新素材 PAPLUS®(パプラス)を開発しました。本製品は、牛乳パックや企業排出古紙をトウモロコシやサトウキビ由来の生分解性樹脂(ポリ乳酸)を複合させることで、石油由来樹脂成分をほぼ0%に削減すると同時に、紙の資源循環を実現することが可能なバイオプラスチック成形品です。これまでポリ乳酸等のバイオプラスチックは、耐熱性や耐久性、そして成形の難しさなどが指摘されていましたが、これらの課題を、生分解性プラスチック成形の第一人者である小松技術士事務所の特許技術を活用することにより克服し、大量生産が可能となりました。本製品は、まず食器や容器、日用品、建築資材、自動車内装材等での用途を見込んでいます。



PAPLUS®の特徴

- 使い捨て石油由来プラスチック製品の代替品としてだけでなく、リユース用製品にも耐えうる十分な強度
- 電子レンジや食洗器対応の耐熱性(約 120°C)付加が可能*プレミアムグレードの場合
- カーボンニュートラル(CO²排出量対PP比 75%減)*当社調べ
- 食品衛生法(厚生省告示第 370 号)準拠*プレミアムグレードの場合
- 最終廃棄時、粉碎することにより、リサイクルが可能。もしくは、堆肥化設備(コンポスト)や土中で微生物の働きにより水と二酸化炭素に分解される(空気中では分解しません)。

本年10月には、バイオプラスチック製品への代替需要の大きい欧州で開催された世界最大規模のプラスチック見本市K2019(於:ドイツ・デュッセルドルフ)にて、PAPLUS®の成形品を展示し、好評を得ました。現在までに、欧州系化粧品メーカー、日用品メーカー向け等に試作品を製作しており、来年前半には商品化を予定しています。



代表取締役 深澤幸一郎のコメント

「私たち日本人にとって親しみ深い紙や自然由来の原料と、世界に誇る日本のものづくり技術とを組み合わせることで、世界でもまだほとんど普及していない石油由来成分ほぼ0%というプラスチック代替素材が開発できたことを大変うれしく思います。昨今、日本のプラスチック問題における対応の遅れが海外から批判を浴びることがありますが、そのような指摘を跳ね返すべく、本製品 PAPLUS®(パプラス)が、地球規模で広がるプラスチック削減への取り組みに向けた、日本発の強力なソリューションのひとつとなるよう、引き続き研究開発を続け、グローバル市場での普及につなげたいと考えています。」

【会社概要】

- ・商号 株式会社カミーノ
- ・所在地 〒107-0062 東京都港区南青山2-18-2 ATビル3F
- ・設立 2015年4月16日
- ・代表 代表取締役 深澤幸一郎
- ・事業内容 紙や植物を原料とする環境配慮型素材・製品の開発(PAPLUS®、折り鶴再生紙製品FANO、折り鶴再生繊維)
環境配慮型製品の販売(EU製ペーパーストロー等)
紙の資源循環型リサイクルシステムについてのコンサルティング
- ・URL <http://ca-mi-no.jp>

【このプレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社カミーノ

〒107-0062 東京都港区南青山2-18-2 ATビル3F

TEL: (03) 6661-3151 FAX: (03)3403-9161

広報担当: 渡辺千智 携帯 (080) 1184-9037

E-mail: info@ca-mi-no.jp